

総合教育審議会答申 概要資料

令和6月11日 玖珠町教育委員会

令和6年度総合教育審議会の論点について

○諮問事項

将来を見据えた持続可能なスポーツ・文化活動の機会確保に向けた今後の部活動のあり方と体制整備等について

○議論の論点

論点1: 将来を見据えた持続可能なスポーツ・文化活動の機会確保に向けた今後の部活動のあり方

1. 将来を見据えた持続可能なスポーツ・文化活動の機会確保に向けた今後の部活動のあり方
2. 地域全体のウェルビーイングの向上に向けてスポーツ・文化活動はどうあるべきか

論点2: 論点1を実現するための実施体制の整備について

1. 運営主体はどうあるべきか
2. 指導者の確保と質の保障のためにどうすべきか
3. 活動場所や設備、移動手段等のインフラをどう運用していくべきか
4. 児童生徒の安全を確保するためにどうすべきか
5. 費用負担はどうあるべきか
6. その他実現に必要な課題にどう対応すべきか

1. 部活動の現状

部活動について考える上で検討すべき課題

① 人口減少による部活動維持のむずかしさ

(参考) 令和12年までに児童生徒数は20%減少
開校以来、中学校に16ある部活動のうち、10は部員数が減少（または廃部）

② 児童生徒のニーズの多様化

(参考) 希望する部活動の種目調査で部活動にない種目を選択する生徒も多数

③ 教員の持続的な指導のむずかしさ

(参考) 部活動指導の多くは「勤務時間外の業務」として行われている。
教員の時間外勤務のうち、3割以上が部活動の指導によるも。

玖珠町の児童生徒・学校数、部員数の現状

ポイント

- 玖珠町の中学生は344人うち、**部活動に加入しているのは約7割（251人）**

○児童生徒・学校数

（令和6年5月1日現在）

	小学校	中学校	合計
児童生徒数	595人	344人	939人
学校数	7校	2校	9校

※学びの多様な学校の前期課程・後期課程を含む

○部活動部員数

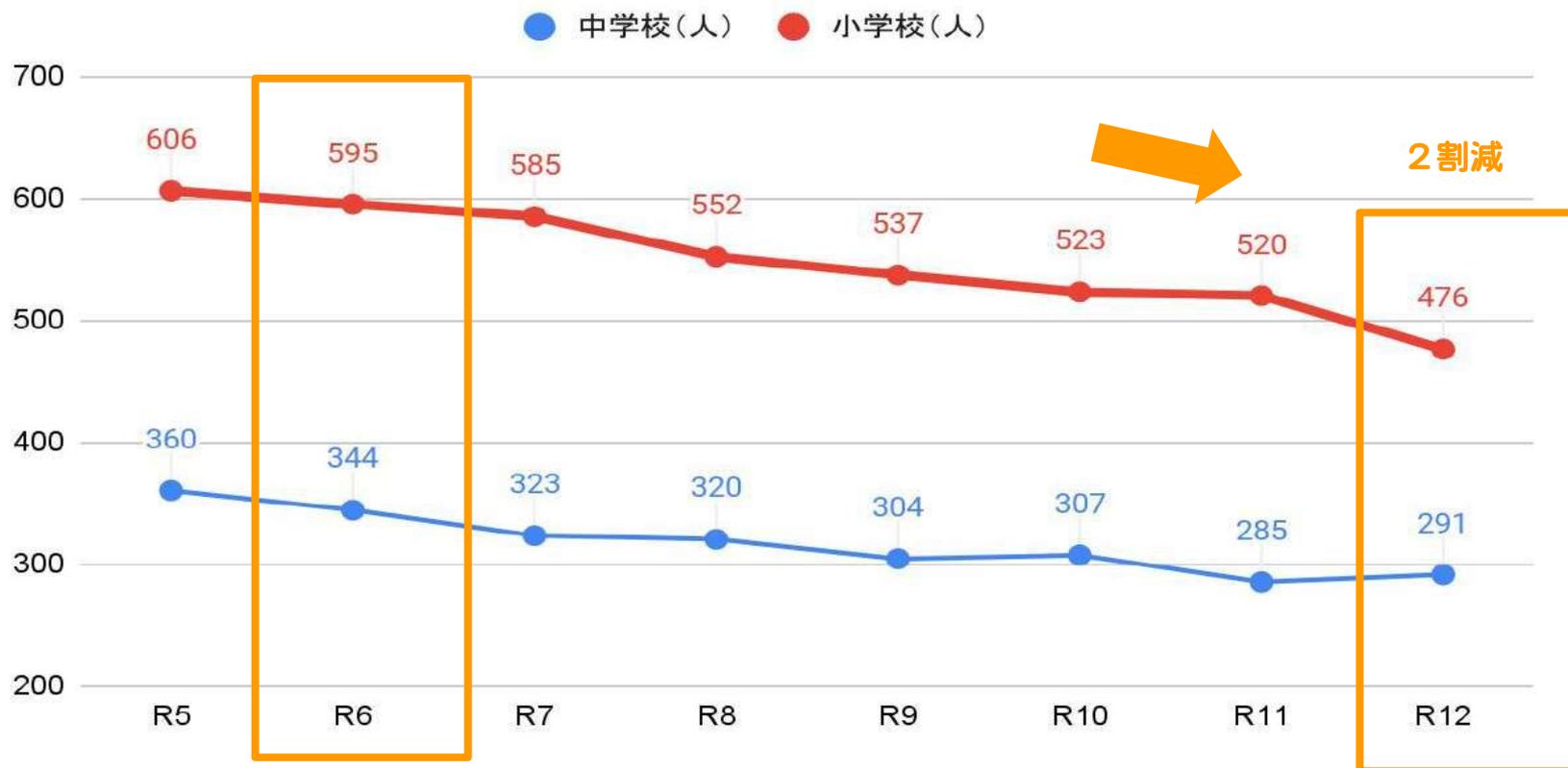
	運動部	文化部	全体
加入率	61%	12%	73%
部員数	209人	42人	251人

玖珠町の児童生徒数の将来予想

ポイント

- 玖珠町の児童生徒は令和12年までには、**現在より約2割減少する** 見込み

児童生徒の推移予測



中学校の部活動の推移について

ポイント

- 中学校に**16ある部活動のうち、10は部員数が減少**（または廃部）している。
- 4の部活動は、試合人数を下回っている。

※赤字はH31より部員数が減少または廃部している部活動。下線は単独で試合人数を下回っている部活動

部活名	H31（開校時）	R6
軟式野球部	20	18
サッカー部	33	8
ソフトボール部	8	<u>8</u>
男子陸上部	12	34
女子陸上部	17	
男子バレー部	13	11
女子バレー部	21	25
男子バスケット部	22	19
女子バスケット部	29	14

部活名	H31（開校時）	R6
男子ホッケー部	8	<u>9</u>
女子ホッケー部	5	<u>8</u>
男子卓球部	27	22
女子卓球部	38	28
美術部	23	12
吹奏楽部	34	30
バドミントン部	-	5
剣道部	3	廃部 (地域クラブ化)
合計	310	251

児童生徒が求める活動の多様化

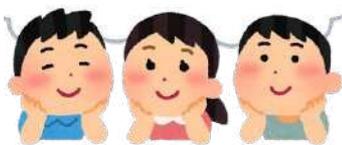
ポイント💡

- 中学校にある部活動以外にも**多様な活動へのニーズがある**

Q：中学校では何の部活動に参加したいですか？

(令和4年調査より、中学校に存在しない部活動を答えた児童生徒の回答を一部抜粋)

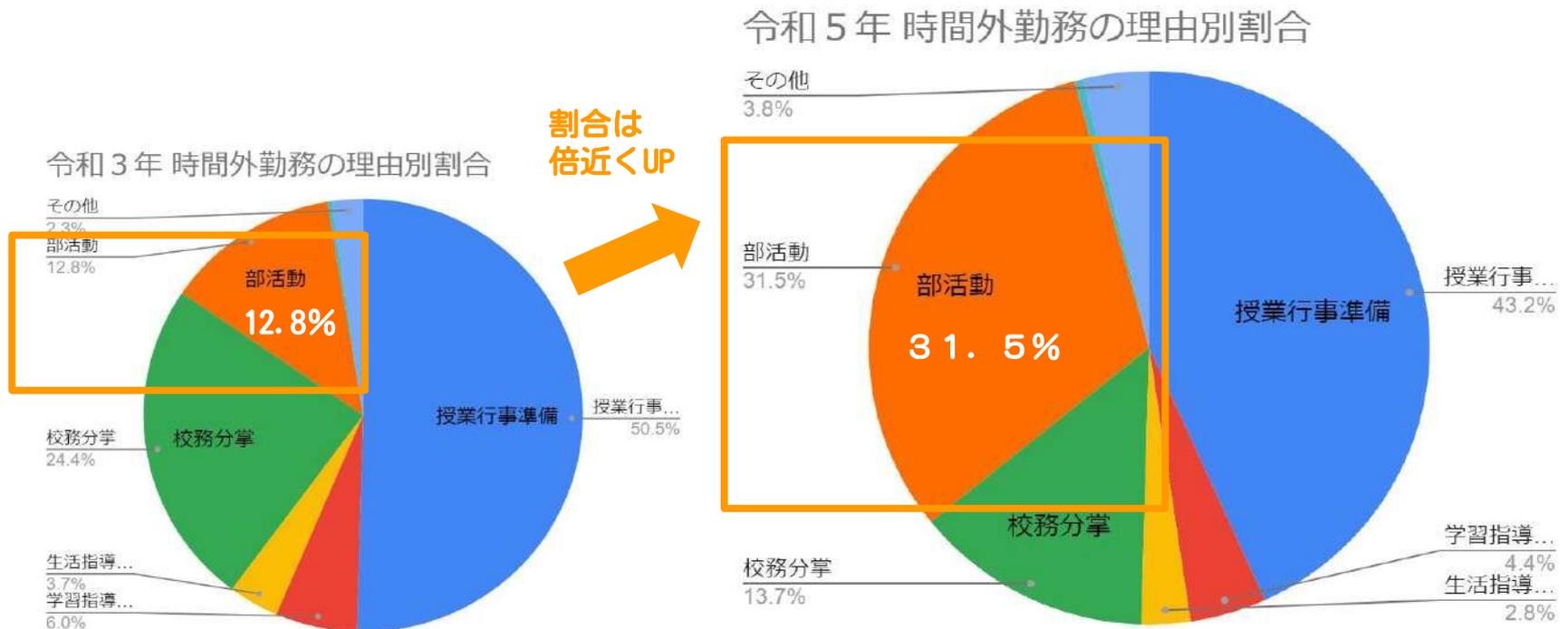
ダンス	茶道	自転車	eスポーツ	将棋	文芸	パソコン
書道	縄跳び	手芸	女子野球	ドッジボール	囲碁	ヒップホップ
合唱	体操	テニス	料理	プログラミング	和楽	俳句
ラグビー	百人一首	弓道	水泳	チェス	写真	技術



部活動の指導に係る教員の勤務の現状

ポイント

- 教員の時間外勤務のうち、3割以上が部活動の指導によるもの
- コロナ渦（令和3年）で部活動を縮小していた時から割合は元に戻っている。



2. アンケート調査結果

部活動に関するアンケート調査について

1. 概要

部活動に関する現状や課題を正確に把握するとともに、児童生徒、保護者、教員の意見を反映し、より良い施策の実施につなげるため、下記のとおり、アンケート調査を実施します。

2. 対象者

区分	対象者	回答数
児童生徒	中学生	回答数：276 対象者数：344 回答率：80%
	小学5年、6年生	回答数：148 対象者数：194 回答率：76%
保護者	中学生の保護者	回答数：283 対象者数：不明 回答率：－%
	小学5年、6年生の保護者	回答数：131 対象者数：不明 回答率：－%
教員	中学校教員（部活動担当教員のみ）	回答数：23 対象者数：25 回答率：92%
	小学校教員	回答数：69 対象者数：67 回答率：102%

3. 回答期間・方法

期間：令和6年7月17日～8月5日

方法：インターネットから回答するフォームによる

調査結果概要①

1. 児童生徒・保護者の状況

①活動への参加状況

- ・ 中学生の9割が部活動やクラブなどに参加。部活動のみは4割強。部活動とクラブなどどちらにも参加は3割。
- ・ 小学5・6年生の7割弱がクラブなどに参加。

②取り組んでいる種目

- ・ 中学生では、部活動のある種目の参加率が高まる（ソフトボール、バレーボール、卓球、吹奏楽など）。
- ・ 小学5・6年生では、部活動にない種目の参加率も高い（ダンス、ラグビー、水泳、伝統芸能など）。

③取り組んでみたい種目

- ・ 中学生、小学5・6年生ともに、部活動にない種目も含め幅広く選択。
- ・ 特に小学5・6年生において、多様な種目を選択する傾向が高い。

④複数種目に取り組む希望

- ・ 中学生は6割弱、小学5・6年生は4割強が複数種目に同時に取り組んでみたいと選択。

⑤部活動・クラブなどの悩み

- ・ 部活動・クラブいずれも「休日の少なさ」「勉強や遊びとの両立」と「思うほど上達しない」が多い。
- ・ 部活動・クラブいずれも回答傾向に大きな差はないが、クラブは「移動が大変」と答える者が多い。

⑥活動日数・時間について

- ・ 中学生・小中保護者ともに、活動時間の理想は平日2時間、休日3時間であり、実際の部活動の活動時間と大きな差はない（小学生は休日1.8時間を理想と回答）
- ・ 児童生徒・保護者ともに、週活動日数の理想は約4日、実際の部活動の活動時間は約5日。

⑦費用について

- ・ 部活動にかかっている費用は約1500円/月、クラブにかかっている費用は約2000円～2500円/月。
- ・ 部活動が地域移行した場合、妥当だと思ふ費用負担は約2500～3000円/月。

調査結果概要②

2. 部活動やクラブの活動を行う目的

- ・児童生徒、保護者、教員いずれも「体力・技術を向上させるため」が上位にある。
- ・児童生徒では「大会・コンクール等で良い成績を残すため」が上位にある。
- ・保護者、教員では「チームワークや仲間と協力することを味わうため」が上位にある。

3. 教員の状況

①担当状況・競技経験有無

- ・担当状況は、6割弱が顧問、4割強が副顧問を担当。
- ・担当する部活動の自身の競技・活動経験は、経験あり・なしが、およそ半々。

②部活動担当希望・部活動負担

- ・部活動の担当希望について、「希望しない」等が6割強、「希望する」等が3割強。
- ・部活動の業務負担について、「負担を感じる」等が9割強。

③部活動負担の理由

- ・9割以上が「休日の部活動指導や大会引率をすること」「帰宅時間が遅くなること」と回答。
- ・次いで、「教材研究など他の業務の時間が無くなる」、「部活動運営にかかる事務処理」と回答。

調査結果概要③

4. 部活動地域移行について

①部活動地域移行の賛否

- ・保護者、教員いずれも、8割以上が「賛成・どちらかという賛成」と回答。

②部活動地域移行の形

- ・小中教員ともに、約8割が「平日・休日の部活動すべて地域クラブ等に移行すべき」と回答

③部活動地域移行への期待

- ・保護者では、「専門的な指導が受けられること」が最も多い。（次いで、「教員の負担が軽減されること」）
- ・教員では、「教員の負担が軽減されること」が最も多い。（次いで、「専門的な指導が受けられること」）

④部活動地域移行への心配

- ・保護者では、「活動場所までの移動」が最も多い。（次いで、「指導者の確保・資質」）
- ・教員では、「指導者の確保・資質」が最も多い。（次いで、「家庭による活動費用の負担」）

⑤兼職兼業による指導希望

- ・兼職兼業による指導を希望する者は、小学校教員で2割強、中学校教員で3割強。
- ・兼職兼業によって指導を希望する場合、理想の週活動日数は、約3日前後。

2. 地域展開の目指す方向性 スケジュール

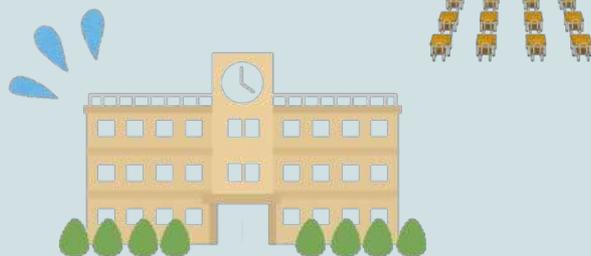
学校部活動の地域展開における 新たな玖珠町のスポーツ・文化活動のゴールイメージ

～地域みんなで楽しむ「多様で持続可能」なスポーツ・文化活動の展開～

学校教育

これまでの学校が主体の部活動

人口減少による
部活動維持のむずかしさ



児童生徒の
ニーズの多様化



教員の持続的な
指導のむずかしさ

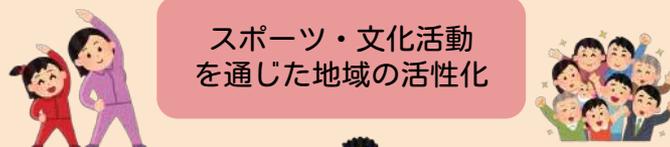


地域展開

生涯教育

地域展開によるスポーツ・文化活動

スポーツ・文化活動
を通じた地域の活性化



多様な活動を
楽しむ



多地域・多世代で
楽しむ・支える



地域クラブ活動への展開の全体像

学校教育

これまでの学校が主体の部活動

位置づけ	学校教育の一環 (教育課程外)
実施主体	中学校
指導者	当該校の教員
参加者	当該校の生徒
活動場所	当該校の施設
移動手段	通学と同様
費用	用具、交通費等の実費

地域
展
開

生涯教育

地域展開によるスポーツ・文化活動

位置づけ	社会教育活動
実施主体	地域の多様な主体 (社会教育関係団体など)
指導者	地域の指導者
参加者	地域の生徒 (他の世代と一緒に参画する場合を含む)
活動場所	学校施設 その他公共施設
移動手段	中学校を活動場所とする 場合は通学と同様
費用	可能な限り低廉な会費 用具・交通費等の実費

地域展開後の中学生の放課後や休日の過ごし方

学校教育

これまでの学校が主体の部活動



○1週間のスケジュール（例）

月	火	水	木	金	土	日
野球部	野球部	—	野球部	野球部	野球部	—

生涯教育

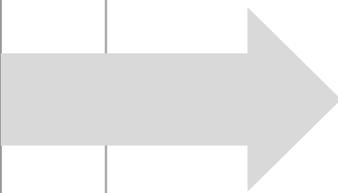
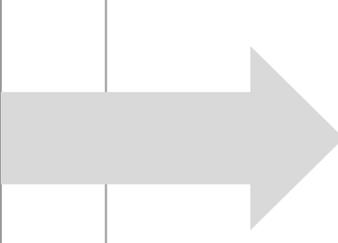
地域展開によるスポーツ・文化活動



○1週間のスケジュール（例）

月	火	水	木	金	土	日
バスケ	書道	—	バスケ	地域 芸能	バスケ	—

ゴールイメージの具現化に向けたスケジュール（案）

	R6	R7	R8	R9	R10
国	令和5年度～令和7年度までの3年間 ：改革推進期間 （休日の部活動から段階的に地域移行。地域の 実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す）		・方針見直し		
県	<ul style="list-style-type: none"> ・国の実証事業（5市・1校） ・県費補助事業 ・進捗状況の把握 ・市町村の進捗支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の継続・拡充 ・進捗状況の把握 ・市町村の進捗支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・休日の活動は地域クラブ活動として実施 ・進捗状況の把握・検証、方針見直し 		
玖珠町	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育審議会 ・推進計画策定 ・地域展開に向けた検討及び体制整備 	<p>【地域展開の目標】 国・県が定める活動時間の徹底（平日4日、土日1日の上限）</p> <p>【町による支援事業】 推進計画を踏まえた地域クラブや、生徒への支援制度の設計</p>	<p>【地域展開の目標】 <u>休日の部活動の地域展開の完了</u>（休日の部活動は原則行わない）</p> <p>【町による支援事業】 <u>支援制度の開始</u></p>	<p>平日・休日の部活動の地域展開完了を目指す</p>	

3. 地域展開の推進体制

部活動地域展開「KUSUモデル」の実現に向けて

目指す姿・考え方

地域みんなで楽しむ「多様で持続可能」なスポーツ・文化活動の展開

持続性

誰もが無理なく楽しく続けられる

×

多様性

誰もが自分にあった活動を楽しめる

そのために解消する課題・方策

持続的な運営体制の確立



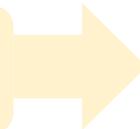
「くす地域クラブ制度」の創設による
地域クラブ運営団体への支援等

安心・安全の確保



指導者研修や保険加入等の徹底

誰一人取り残されない
活動機会の提供



経済的困窮世帯に対する参加費用支援

認定地域クラブ制度（案）について

認定地域クラブ協議会

事務局

活動支援・研修など

認定地域クラブ

団体A

団体B

団体C

申請・認定

玖珠町教育委員会

認定地域クラブ

- 受けられる支援
- ・運営支援金
（人件費・育成費等）
 - ・公共施設利用費減免
 - ・経済的困窮世帯支援
 - ・指導者研修
 - ・クラブの情報の集約や広報
 - ・その他の運営支援 等

- 認定条件
- ・玖珠町内で活動する社会教育関係団体
 - ・町内中学生を対象とする
（他町・他世代が参画する場合も含む）
 - ・規定活動時間の遵守
 - ・指導者研修の受講
 - ・保険への加入
 - ・保護者会の設立 等